

九州育種場だより

Vol. 53 2026. 7

第6期中長期計画期間のスタート

九州育種場長 中島 朝長

森林・林業基本計画が6月に閣議決定されました。その中では、「再造林を確保し、花粉発生源対策や造林の省力化・低コスト化等を推進する観点から、花粉の少ない苗木や成長等に優れた特定苗木、コンテナ苗の生産及び流通体制の整備等の取組を進める」ほか、「林木遺伝資源の収集や保存、第3世代精英樹等の品種や育種技術の開発、採種園や採穂園の整備、コンテナ苗の生産施設の整備や苗木生産における省力化等の技術の向上」等を進めることとされております。

九州育種場においても、引き続き特定苗木の普及や品種開発を進めるとともに、省力化・低コスト化の観点から育種技術開発も進めていく必要があります。

令和8年4月より、(国研)森林研究・整備機構の第6次中長期計画(令和8~14年度)がスタートしました。国から指示された中長期目標を達成するため、当該計画を踏まえ業務運営に取り組むこととしております。

前中長期計画期間中、九州育種場においては、優良品種の開発や特定母樹の指定、原種苗木の生産・配布等の取組に加え、リュウキュウマツの材線虫抵抗性品種の開発(沖縄県と共同)や、スギ採穂台木の仕立て方マニュアル及びエリートツリー特性表(九州育種基本区スギ)の公表などの成果をあげております。

新たな中長期計画においては、これまでどおり、林木育種の基盤となる育種素材や遺伝資源の収集・

保存のほか、優良品種の開発や原種苗木を生産・配布、そして普及を行うことにより、林業経営はもとより、気候変動への対応や花粉発生源対策といった社会的要請に貢献していくこととしております。

加えて、新たな取組として、従来技術とAIを含むデジタル技術の融合によるスマート育種技術の導入や先端リモートセンシング技術を用いた新たな表現型評価技術の開発を推進することとしております。

昔はゲノム情報を解析するには相当の費用と時間を要しておりましたが、近年、解析技術の大きな進歩により、安価で・大量に・高品質なゲノム情報を取得することが可能になったことから、優良形質を持つ系統のゲノム情報をAI技術も使い解析し、効率的に人工交配を進めることとしております。

また、検定林調査時には測稈や超音波樹高測定器を用いて立木の樹高を測定しておりますが、時間と労力が掛かるため、UAV-LiDARによる樹高測定作業の効率化を図ることとしております。このような育種に必要な技術の高度化、活用にも積極的に取り組む方針です。

最後に、育種には長い時間と労力がかかります。関係各位からご協力をいただきながら、先人が残してくれた検定林や調査データ、育種技術を大切にしつつ、これらを発展できるよう九州育種場一同、取り組んでまいります。





令和7年度に九州育種基本区のヒノキ特定母樹が増えました

育種課長 千吉良 治

九州育種場では、令和7年度までにスギについて40系統の精英樹やエリートツリーを特定母樹として申請を行い、農林水産大臣の指定を受けました（九州育種基本区内のスギ特定母樹の指定数は44系統）。

一方でヒノキの特定母樹は令和7年4月現在で10系統と選択枝が少ない状況でした。そこで、ヒノキ特定母樹の選択枝を増やすために令和7年度には、新たに4系統のエリートツリーについて特定母樹の申請を行い、農林水産大臣の指定を受けました。

これにより、九州育種基本区内から選抜された精英樹の子供であるヒノキ特定母樹は14系統となりました。今後も引き続きヒノキ特定母樹の系統数を増やすための取組を続けていく計画です。

写真 特定母樹に指定された
ヒノキエリートツリー
ヒノキ九育2-57



表 ヒノキ特定母樹の選抜地、特性に関する情報（令和8年4月現在）

特定母樹 指定番号	系統名	選抜 育種区	選抜地	両親の選抜地		30年次単木材積 (対在来系統比率)	材質 ¹⁾ (立木ヤング率)	雄花着花性 (ジベレリン処理)
特定26-79	ヒノキ九育2-150	北九州	佐賀県	佐賀県	長崎県	4.06	E130	2.8
特定6-7	ヒノキ九育2-103			佐賀県	佐賀県	1.63	E150	2.2
特定6-8	ヒノキ九育2-105			鹿児島県	佐賀県	1.94	E150	2.2
特定6-9	ヒノキ九育2-121			鹿児島県	佐賀県	3.03	E150	2.0
特定6-10	ヒノキ九育2-122			鹿児島県	佐賀県	2.90	E150	2.5
特定6-11	ヒノキ九育2-126			長崎県	佐賀県	2.62	E150	2.7
特定5-11	ヒノキ九育2- 10		長崎県	佐賀県	福岡県	1.95	E130	2.7
特定5-12	ヒノキ九育2- 23			福岡県	長崎県	2.11	E130	2.8
特定5-13	ヒノキ九育2- 27			福岡県	福岡県	2.14	E110	2.7
特定5-14	ヒノキ九育2- 34			佐賀県	長崎県	2.01	E150	2.1
特定7-2	ヒノキ九育2- 57	南九州	熊本県	大分県	大分県	1.49	E150	2.6
特定7-3	ヒノキ九育2- 58			大分県	大分県	1.65	E150	2.6
特定7-4	ヒノキ九育2- 66			大分県	長崎県	1.62	E150	2.7
特定7-5	ヒノキ九育2- 74			鹿児島県	鹿児島県	2.22	E150	2.2

注：黄色で表示した部分が令和7年度に指定された特定母樹

1) 材の剛性は、46年生から55年生の原木について測定した応力波伝播速度の値から、池田ら（2000）の換算式に基づいてヤング率の推定値を算出し、JAS機械等級区分で表示した。但し、**ヒノキ九育2-27のみクローン（17年生時）**について測定した応力波伝播速度の値を用いて、同様の手順でヤング率の推定値を算出し、JAS機械等級区分で表示した。



「林木遺伝子銀行110番」

国指定天然記念物「久米の五枝のマツ」後継樹の育成について

遺伝資源管理課 収集管理係長 村上 文典

九州育種場では、機関や個人が所有する天然記念物や巨樹、名木等の樹木が衰弱している場合に、所有者等の申請により後継樹を増殖する「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

当事業は、母樹から収集した枝でつぎ木やさし木等を行い、母樹と同一遺伝子を持つクローンである後継樹苗木を増殖し、当场で研究材料として保存するとともに、里帰りさせる取組を行っており、沢山の方々に喜んで頂いています。

今回は、里帰りを待っている「久米の五枝のマツ」の苗木についてご紹介します。

＜国指定天然記念物「久米の五枝のマツ」 ※指定解除手続き中＞

五枝のマツは沖縄県島尻郡久米島町にあり、18世紀初頭に植えられた記録が残る高さ約6m、幹周り約4.3m、枝が地をはうように伸びる（約250㎡）姿が特長のリュウキュウマツです（写真1）。長きにわたり久米島の象徴として地域住民に親しまれ、平成9（1997）年7月28日には国の天然記念物に指定されました。

久米島では令和3（2021）年夏頃から松くい虫被害が確認されるようになり、五枝のマツについても薬剤の樹幹注入や散布などの対策が実施されてきました。

しかし、令和7（2025）年6月に松くい虫被害で一部が赤褐色に変色していることが確認されてから急速に病徴が広がり、同年8月26日に樹

木医から枯死と診断され、国指定天然記念物の指定解除手続きがなされています（令和8年6月19日、文化審議会で解除の答申）。

後継樹の育成については、令和6（2024）年11月に久米島町から九州育種場へ「林木遺伝子銀行110番」の申請があり、令和7（2025）年2月に当育種場においてつぎ木増殖を実施しました。増殖後、活着した後継樹苗木については、現在10本程度を苗畑や温室で育成しています（写真2）。

長年、地域の方々に見守られてきた「久米の五枝のマツ」の後継樹苗木を、これからも現地へ里帰りする日まで大切に育ててまいります。



写真1 「久米の五枝のマツ」※平成23（2011）年頃



写真2 当场育成中の後継樹苗木



特定母樹の原種配布等について

遺伝資源管理課 普及調整専門職 田中 文浩

特定母樹の原種配布は、平成26年度末から始まり、今年で13年目となりました。

これまでの特定母樹の指定状況及び原種配布の数量と特定増殖事業者の認定状況等についてご紹介します。

1. 特定母樹の指定

九州育種基本区内の特定母樹は、令和7年度にスギ1系統、ヒノキ4系統が農林水産大臣から指定されたため、令和8年3月末現在でスギ44系統・ヒノキ14系統、合計58系統が指定されています。

表1 特定母樹の指定状況 単位：系統

樹種	年 度	H25	H26	H28	H29	H30	R5	R6	R7	計
スギ	エリートツリー	9	5		4				1	19
	第1世代精英樹		2	9	1					12
	花粉症対策品種	5		1	2	1				9
	佐賀県単独申請							4		4
	計	14	7	10	7	1	0	4	1	44
ヒノキ	エリートツリー		1				4	5	4	14
	計		1				4	5	4	14
合 計		14	8	10	7	1	4	9	5	58

注1：花粉症対策品種には、特定母樹に指定されたのち、花粉症対策品種に指定された系統を含む

注2：平成27年度、令和元年度～令和4年度は指定なし

2. 特定母樹の原種配布

令和7年度の特定母樹の原種配布実績につきましては、表2のとおりとなっています。

令和7年度の配布内訳は、スギ3,471本（穂木150本、苗木3,321本）、ヒノキ771本（穂木50本、苗木721本）です。

今年度も特定母樹の原種配布要望が約4,000本見込まれており、年々増加傾向となっています。



写真 今年度配布するスギ特定母樹の苗木

表2 特定母樹の原種配布実績

年度	事業者	件数	系統数	配布本数
H26 ～ H30	県	31	35	3,209
	民間	29	39	5,893
	計	60	40	9,102
R元	県	8	36	1,100
	民間	15	31	2,620
	計	23	40	3,720
R2	県	6	16	555
	民間	16	28	2,235
	計	22	33	2,790
R3	県	9	26	865
	民間	17	33	2,545
	計	26	38	3,410
R4	県	6	24	586
	民間	21	25	2,659
	計	27	34	3,245
R5	県	5	18	545
	民間	22	30	2,346
	計	27	32	2,891
R6	県	3	13	504
	民間	23	20	2,911
	計	26	28	3,415
R7	県	6	16	744
	民間	24	24	3,498
	計	26	29	4,242

注：件数は、年度内に事業者へ複数配布があっても1件系統数の計が合わないのは重複があるため
配布本数は、穂木・苗木の計

3. 特定増殖事業者の認定

九州育種基本区内の「認定特定増殖事業者」は、令和7年度に福岡県で1者、熊本県で1者、鹿児島県で5者が認定され、令和8年3月末現在で50者となっています。

表3 特定増殖事業者の認定状況

認定県	H26 ～R3	R4	R5	R6	R7	計	内訳	
							企業等	個人
福岡県	1	2		1	1	5	2	3
佐賀県			1			1		1
長崎県	2					2	2	
熊本県	12		2	1	1	16	10	6
大分県	4					4	4	
宮崎県	6		1	1		8	7	1
鹿児島県	2	3		4	5	14	8	6
計	27	5	4	7	7	50	33	17

注：企業等に樹苗生産組合及び森林組合を含む



林木育種技術・育苗等に関する講習指導の実施

育種技術専門役 澤村 高至

九州育種場では、林業に関わる行政・研究の担当者や、森林組合、認定特定増殖事業者等を対象に、例年、林木育種技術に関する講習指導を実施しており、毎回好評をいただいております。

直近の令和7年度には32件、659人の方々に受講いただきました。

主な内容は、特定母樹の普及に関わるスギ採穂園の管理方法や苗木の育苗管理、花粉症対策品種の開発に用いるDNA解析や人工交配方法など多岐にわたるものでした。

一例として、令和8年2月には、九州森林管理局屋久島森林生態系保全センターが主催した「屋久島地杉苗採穂台木の仕立て方に関する現地検討会」において、さし木で屋久島地杉苗の生産を進める上で重要となる「採穂台木の仕立て方」の技術指導を、苗木生産に携わる屋久島地杉苗生産協議会の会員をはじめ、屋久島森林管理署など関係機関の職員を対象に行いました（写真1）。

屋久島において採穂台木から採穂し、さし木による苗木の生産を目指す理由は、貴重な森林生態系を有する世界遺産の島として、世界遺産区域以外の人工林においても屋久島地杉（ヤクスギ由来）の遺伝子を有する優良な苗木を植えて森林を育成・利用していくことが重要と考えられているためです。

なお、同年5月には、屋久島地杉苗生産協議会の会員が、さらに知見を深めるために九州育種場を訪れ、スギ採穂園やさし木苗木の育苗施設などを視察されました（写真2）。

九州育種場では、平成30年より屋久島地杉苗木の生産に向けた取組に対し、さし木によるコンテナ苗の育苗方法など技術支援を行ってきました。

一連の技術普及により、優良な苗木の安定的な生産体制が整い、人工林の保全・維持、さらには屋久島の森林生態系の維持に資することが期待されます。

今年度も九州育種場では、関係機関と連携しながら林木育種技術の普及に努めてまいります。



写真1 採穂台木（ヤクスギ由来）の剪定指導の様子



写真2 九州育種場を視察される屋久島地杉苗生産協議会の会員

視察・見学、講習の要望につきましては、九州育種場のホームページからお申込みください。

九州育種場ホームページ 視察・見学、講習の受入れについて

<https://www.ffpri.go.jp/kyuiku/gyomushokai/shisatu/index.html>





YouTube森林総研チャンネルについて

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所では、研究内容や成果等の動画をYouTube森林総研チャンネルで配信しておりますので、是非ご覧ください。

- ・森林総研チャンネル：<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel>
 - ・林木育種センター業務紹介：<https://www.youtube.com/watch?v=hGal7Krf4yA>
 - ・林木育種センター職員採用：<https://www.youtube.com/watch?v=mRR1k4D74Zo>
- 上記以外に200本近い動画を配信中です。

林木育種連携ネットワークへの入会について

九州育種場では、開発された品種の普及と促進を目的に、県や県山林種苗協同組合等の方々と、品種の普及に関連する技術情報の交換等を行う「林木育種連携ネットワーク」を立ち上げております。

具体的には、九州育種基本区において①会員相互の情報交換、②九州育種場からの情報提供（メールマガジンの発行）を行っています。

林木育種連携ネットワークへの入会をご希望される場合は、下記担当者までお問い合わせください。

担 当：連絡調整課 連絡調整係
Email：kyusyuiikusyu@ffpri.go.jp

令和8年度行事予定

- ・令和8年10月15日（木）13:00～17:00
令和8年度林業研究・技術開発推進九州ブロック会議育種分科会【熊本市：九州森林管理局】
令和8年度九州地区特定母樹等普及促進会議【熊本市：九州森林管理局】
- ・令和8年10月16日（金） 9:45～11:15
林木育種技術講習会【合志市：九州育種場】
- ・令和8年11月16日（月）13:30～16:30
令和8年度九州地域森林研究公開講演会【宮崎市：宮崎大学錦本町ひなたキャンパス】

人の動き

（氏 名）	（新職名）	（旧職名）
■令和8年 3 月31日付		
松永 和久	退職(九州森林管理局福岡森林管理署)	連絡調整課長
猪嶋 真由美	退職(九州森林管理局熊本森林管理署)	遺伝資源管理課収集管理係長
■令和8年 4 月 1 日付		
金田 伸也	連絡調整課長	採用(九州森林管理局)
柏木 学	遺伝資源管理課長	関西育種場遺伝資源管理課長
村上 丈典	遺伝資源管理課収集管理係長	関西育種場連絡調整課庶務係長
飯塚 樹	森林総合研究所管理課庶務係	遺伝資源管理課増殖保存係
■令和8年 7 月 1 日付		
佐久 董	遺伝資源管理課増殖保存係	連絡調整課庶務係
恩田 まこ都	林木育種センター	遺伝資源管理課増殖保存係
	西表熱帯林育種技術園熱帯林試験係	

巻頭帯写真：Mスターコンテナ植え替え前の
スギ特定母樹箱挿しの状況
(九州育種場内 令和8年4月20日撮影)

九州育種場だより Vol.53 2026（令和8）年 7月発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター九州育種場
〒861-1102 熊本県合志市須屋2320-5
電話 096-242-3151 FAX 096-242-3150
URL <http://www.ffpri.go.jp/kyuiku/>



木になる紙

